お知らせ

第6回　えべえべ祭　開催のご案内

1階フロアー

【リハビリルーム】
- ●簡単リズム筋トレ　11:15～11:30、13:30～13:45
- ●健康相談（骨密度測定）　11:30～12:00、13:00～13:30
- ●介護相談　11:00～12:00、13:00～14:00

【各廊下】
- ●作品展示　随時
- ●配食サービス相談　11:00～12:00、13:00～14:00

【職員食堂付近】
- ●そば打ち見学と試食ｺｰﾅｰ　11:30～なくなり次第終了

【デイケアルーム】
- ●水羊羹とお抹茶ふるまい　11:30～なくなり次第終了
- ●わら草履づくり体験　11:00～12:00、13:00～14:00

【玄関付近】
- ●小谷山菜加工場即売　11:00～なくなり次第終了
- ●パン工房ﾐｭｰﾚﾝ即売　11:00～なくなり次第終了

2階フロアー

【模擬店】
- ●ちらし寿司・豚汁　11:30～なくなり次第終了
  フルーツポンチ

3階フロアー

【模擬店】
- ●おこわ・けんちん汁　11:30～なくなり次第終了
  黒ごまプリン

かたくりの郷

【かたくり茶房】
- ●ケーキと飲み物のセット　11:30～なくなり次第終了

特別プログラム

開催時間中、ピエロやハーモニカ演奏の方が廻っていくよ！！

平成１９年4月２２日（日）
午前１１時～午後2時
白馬メディア各フロアーにて

「長野県介護サービス情報の公表」事業の調査

３月２０日に調査を受けました。
調査内容は、
介護サービスの内容に関する事項と
介護サービスを提供する事業所又は運営状況に関する事項です。

北アルプス訪問看護ステーション	８６項目
北アルプス訪問介護ステーション	７８項目
居宅介護支援事業所しろうま	５６項目
介護老人保健施設白馬メディア	１２０項目

調査票の電子データは、７月下旬までに長野県ホームページに掲示されます。

～編集後記～

施設では今「えべ・えべ祭」の準備を進めています。この時期になると「えべ」ってどういう意味なの？と、この地に移り住んで間もない人たちから質問を受けます。この地域の方言で「一緒に行こう」という意味なのですが、私達はこんな時それぞれの地域での方言や行事などの話を聴くことにしています。ひとつの方言や行事、食べ物などを通して、いっとき、若かりし頃の話に花が咲きます。

西澤

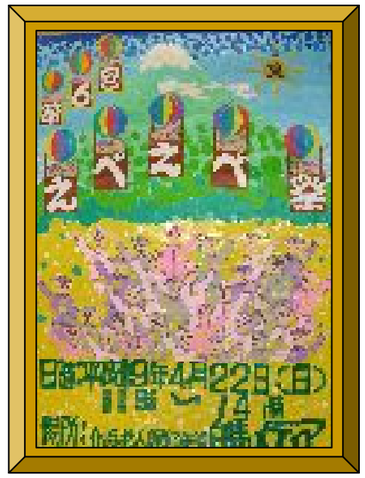
にっこりぃ

～いつもやさしく～

発行日：平成19年4月10日　第8号

えべえべ祭ポスター受賞作品

事務長賞


総長賞

特別賞

看護長賞

施設長賞

来る４月２２日のえべえべ祭に向けてポスターを公募したところ、ご利用者と職員の共同作品が１９点集まりました。どれもみな力作で、甲乙つけがたい作品ばかりでしたが、受賞した作品をご紹介します。

当日のえべえべ祭の詳細については４ページ目に掲載しています。

編集・発行　城西医療財団　白馬広報委員会

特別医療法人　城西医療財団
神城（かみしろ）醫院（内科・心療内科・皮膚科・精神科）
‘Ｓ’ウェルネスクラブ神城（厚生労働省認定疾病予防運動療法施設）
白馬メディア（介護老人保健施設）
かたくりの郷（認知症対応型共同生活介護）
北アルプス訪問看護ステーション
北アルプス訪問介護ステーション
しろうま（居宅介護支援事業所）
〒399-9211
長野県北安曇郡白馬村大字神城 22844
TEL　0261-75-7100（代）
FAX　0261-75-7120

白馬メディアの理念

施設長　宮城（みやぎ）　彰（あきら）

施設開設から 6 年の歳月が過ぎようとしています．その歳月の流れの中で私たちはたくさんの出会いをいただきました．そしてその出会いに支えられながら私達の営みは少しずつ“人と人との関わり”の流れになり、“人と人とのつながり”というかたちになってきたような気がします．

私たちは、お年寄りに寄り添い、ご家族に向かい合い、そして地域のさまざまな立場の人たちと声を掛け合いながら「ケアとは何か？」と自らに問いかけつづけてきました．そのなかでたくさんの誤りも重ねてきました．多くの方々を傷つけ、こころならずも重い負担を負わせることになったことも少なくなかったと思います．確かに私たちの社会の現状はお年寄りに、あるいはお年寄りを支えるご家族にとって大きな不自由の中にあります．その中で様々な不自由を負いながら「老い」を生きていかねばならないお年寄りの胸を衝かれるような辛さ、哀しさの声を聴き、その姿を目の当たりにしてきました．しかしまた、その不自由をつきぬけてみせてくださる信じがたいまでの透明な笑顔に心うたれ、その眼差しの寛さ、優しさに深く励まされ、支えられてきたことも事実です．そのなかで私たちは老いを生きる思いを少しずつ理解するようになってきました．そして、ケアすることが、けっしてケアする側からケアされる側に一方向的になされる営みではないということに気づかされてきたのです．私たちはこの 6 年間の困難な営みのなかで私たちのこころを支えてきた想いを白馬メディアの理念として自分たちのこころに刻むことにしました．

白馬メディアの理念

『いつも優しく、お互いに手をつなぎあう「白馬メディア」』
『利用者・家族・職員が、お互いの成長と自己実現を願いながら、支えあう関係づくりを目指します』

「いつも優しくある」ことの深い困難さに怯みながらも、私たちはこれからも私たちの目の前のお年寄り一人一人の人生という物語を尋ね、それに導かれて、「人と人の関わり・つながりのあり方」を考えていきたいと思います．20 億とも 30 億年ともいわれる、気の遠くなるような人の生命の連鎖の中で、「命の結び目」としていただいたたくさんの「出会い」を拠り所にしながら「人はどこから来て、どこに向かうのか」という問いの深みに分け入っていきたいと願っています．

人生は旅　旅は出会い

すみれ棟
介護員　古郡（ふるごおり）　公喜（きみよし）

山とスキーが好きで白馬に移り住んで２０年の歳月が過ぎようとしています。早いものです。今では２人の子供の父親です。いつの間にか介護という職に就いていました。始まりはなんとなく行ってしまった介護職の就職説明会です。

５年前のことです。以前していたスキーパトロールと介護職とは、人助けということで何か共通点があるような気がしたのです。なんとなくですけれど。しかし、そこでは特養ライフ施設長との出会いがありました。リクルートスーツを着た若い人たちの中にＴシャツに半ズボンの子連れの中年男、僕はとても浮いていました。そんな僕にライフ施設長は優しく介護職に就く為のアドバイスをしてくださいました。そして僕はホームヘルパー２級の講習を鬼無里村で受けることになりました。週一回約半年、鬼無里村に通うなかでたくさんの出会いがありました。受講生の皆さんからは、帰りによく野菜や米を戴きました。相談員の方からは、ヘルパー講習の意義について教わりました。それは人を学ぶこと、つまり人間学であると。この言葉は今でも心に強く焼き付いています。

そして僕は鬼無里村でヘルパー２級の資格を取得し、翌年、特養ライフに就職することができました。ここでもたくさんの素晴らしい出会いがありました。相談員と介護主任からは、お年寄りとしっかり向き合うこと、人生の大先輩であるお年寄りとふれ合うことで人生を学ぶこと、共に生きるということ、それは介護に留まらず、人生においてとても大切なことを教わりました。そして、僕はこの道を行こうときめました。今、僕は白馬メディアで働いています。
忙しさの中でも自分自身を見失うことなく、愛情をもってご利用者と関わらせて戴きたいと思います。何故ならこの世の中で愛情ほど尊いものはないのだから。

お雛様

今年のお雛様は、手づくりのものを飾ろうと考えて、2月に入った頃から、入所している人達と一緒に折り紙でお雛様を作りました。

お雛様の日に、飾り付けをしましたが、飾っただけで、雰囲気が明るくなり、春を感じる気がしました。折り紙をしながら、いろいろなお話が出来た事も嬉しかったです。

山岸